

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	横浜国立大学
設置者名	国立大学法人横浜国立大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
教育人間科学部	人間文化課程	夜・通信		0	0	60	13		
教育学部	学校教育課程 人間形成コース	夜・通信			4	78	13		
	学校教育課程 教科教育コース	夜・通信		14	17	91	13		
	学校教育課程 特別支援教育コース	夜・通信			2	76	13		
経済学部	経済学科	夜・通信		-	13	73	13		
経営学部	経営学科	夜・通信		-	22	82	13		
理工学部	機械・材料・海洋系学科 機械工学 EP	夜・通信	60		8	80	13		
	機械・材料・海洋系学科 材料工学 EP	夜・通信		12	2	74	13		
	機械・材料・海洋系学科 海洋空間のシステム デザイン EP	夜・通信			0	72	13		
	化学・生命系学科 化学 EP	夜・通信		10		12	82	13	
	化学・生命系学科 化学応用 EP	夜・通信			34	104	13		
	化学・生命系学科 バイオ EP	夜・通信			10	80	13		
	数物・電子情報系学科 数理科学 EP	夜・通信		12		10	82	13	
	数物・電子情報系学科 物理工学 EP	夜・通信			10	82	13		
	数物・電子情報系学科 電子情報システム EP	夜・通信		10		6	76	13	
	数物・電子情報系学科 情報工学 EP	夜・通信			20	90	13		

都市科学部	都市社会共生学科	夜・通信	2	-	10	80	13	
	建築学科	夜・通信			13	83	13	
	都市基盤学科	夜・通信			7	77	13	
	環境リスク共生学科	夜・通信			12	82	13	
経営学部	経営学科 夜間主コース	(夜)・通信	2	-	22	24	13	
<p>(備考)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育人間科学部、経済学部経済システム学科及び国際経済学科、経営学部経営学科（昼間主及び夜間主コース）、会計・情報学科、経営システム科学科及び国際経営学科並びに理工学部機械工学・材料系学科及び建築都市・環境系学科は平成29年度から学生募集を停止した。 ・教育学部、経済学部経済学科、経営学部経営学科、理工学部機械・材料・海洋系学科及び都市科学部は平成29年度に設置した。 ・教育学部学校教育課程、経済学部経済学科、経営学部経営学科、理工学部機械・材料・海洋系学科（機械工学E P、材料工学E P、海洋空間のシステムデザインE P）並びに都市科学部建築学科及び都市基盤学科については、改組前の組織である教育人間科学部学校教育課程、経済学部経済システム学科及び国際経済学科、経営学部経営学科（昼間主コース）、会計・情報学科、経営システム科学科及び国際経営学科並びに理工学部機械工学・材料系学科（機械工学E P、材料工学E P）及び建築都市・海洋系学科（建築E P、都市基盤E P、海洋空間のシステムデザインE P）も含めて計上した。 								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

- ・本学ウェブサイトの一般公開用シラバスにおいて一覧表を公表する。

一般公開用シラバス

https://www.ynu.ac.jp/education/ynu_education/schedule.html

<検索方法>

1. 「シラバス検索」画面から「開講学部」を何れか選択する。
2. 「実務経験のある教員による授業」欄をチェックする。
3. 画面下の「検索」ボタンをクリックすると、当該学部で開講される「実務経験のある教員による授業」一覧が表示される。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 <該当なし>
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	横浜国立大学
設置者名	国立大学法人横浜国立大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

・本学ウェブサイトにより公表する
URL：<https://www.ynu.ac.jp/about/organization/manage/officers.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	民間企業常務取締役	2019年4月 1日～ 2021年3月 31日	産学官連携担当
(備考) 2020年4月1日までに、複数の学外者である理事の選任を確実に実施する。			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	横浜国立大学
設置者名	国立大学法人横浜国立大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学では、すべての授業科目において、授業の方法及び内容、履修目標及び到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、本学の WEB シラバスを通じてその内容を学内外に公表している。</p> <p>本学の授業計画(シラバス)は、授業科目名、単位数、授業の目的、授業計画、授業時間外の学修内容、履修目標、到達目標、成績評価の方法、成績評価の基準、授業の方法、教科書・参考書、履修条件・関連科目等を日本語又は英語で記述し、学生に対しあらかじめ明示するものとする。</p> <p>また、「授業設計と成績評価ガイドライン」に基づき、履修目標と到達目標の明確化、全学的な成績評価の基準表の導入、授業別ルーブリックの作成と学生への明示を行うとともに、授業改善の PDCA サイクル確立を図るものとする。</p> <p>履修目標は、授業で扱う内容(授業のねらい)を示す目標とし、より高度な内容は主体的な学修で身に付けることが必要であり、履修目標を超えると成績評価「秀」となる目標を示すものとする。到達目標は、授業を履修する学生が最低限身に付ける内容を示す目標とし、到達目標を達成すると成績評価「可」となる目標であり、さらなる学修を必要とするレベルを示すものとする。また、到達目標には、本学が卒業を認定し、学位を授与するために修得しておくべき学修成果(身に付けるべき資質・能力)として本学が定める 4 つの実践的「知」(知識・教養、思考力、コミュニケーション力、倫理観・責任感)との関連を記載することとしている。</p> <p>全学的な成績評価基準表は次のとおりとする。</p> <p>秀：履修目標を越えたレベルを達成している</p> <p>優：履修目標を達成している</p> <p>良：履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している</p> <p>可：到達目標を達成している</p> <p>不可：到達目標を達成していない</p> <p>成績評価の基準には、学修成果に係る評価指標として「授業別ルーブリック」を作成し、学生が学修する内容と学生が到達するレベルをマトリックス形式で明示するものとする。</p> <p>なお、実務経験のある教員が行う授業科目については、その旨を表記するとともに、授業の目的において、どのような実務経験のある教員がどのような教育を行うのかを記載するものとする。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本学の WEB シラバス(一般公開用)にて公表している</p> <p>http://www.ynu.ac.jp/education/ynu_education/schedule.html</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

成績評価及び単位の授与並びに履修認定にあたっては、授業科目毎にあらかじめ設定した履修目標及び到達目標並びに成績評価の方法及び基準に基づき、履修学生の学修成果について、厳格かつ適正に評価して単位の授与を行い、又は履修認定を実施している。

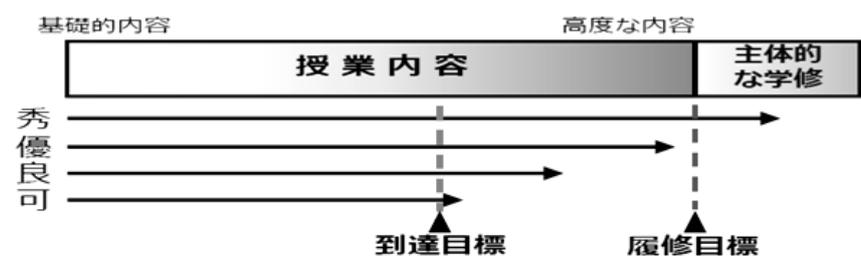
『成績評価基準』

YNU 授業の成績評価は、「授業設計と成績評価ガイドライン」による全学統一の成績評価基準に基づき、WEB シラバス (Syllabus) に記載した成績評価の方法により総合判定し、成績グレード (評語) を「秀・優・良・可・不可」の5段階で表し、それぞれの授業科目の成績評価に対して GP (Grade Point) を与えるものとする。ただし、5段階の成績グレード (評語) で表し難い授業科目は「合格・不合格」で表し、GP (Grade Point) を与えないものとする。

WEB シラバスには、授業科目ごとの授業の目的、授業計画、授業時間外の学修内容、履修目標、到達目標、成績評価の方法、成績評価の基準、授業の方法、教科書・参考書等を学生に対しあらかじめ明示するものとする。

成績評価の基準には、学修成果に係る評価指標として「授業別ルーブリック」を作成し、学生が学修する内容と学生が到達するレベルをマトリックス形式で明示するものとする。

1. 履修目標は、授業で扱う内容 (授業のねらい) を示す目標とし、より高度な内容は主体的な学修で身に付けることが必要であり、履修目標を超えると成績評価「秀」となる目標
2. 到達目標は、授業を履修する学生が最低限身に付ける内容を示す目標とし、到達目標を達成すると成績評価「可」となる目標であり、さらなる学修を必要とするレベルを示す



『単位の授与』

YNU の授業科目の単位授与は、授業科目を履修し、その成績を判定の上、「秀、優、良、可、合格」を取得した学生に所定の単位を与えるものとする。ただし、卒業論文、卒業研究、卒業製作等の授業科目は、学部の定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えるものとする。授業科目の成績は、履修した学生に対して、原則として学期末又はターム期間末に筆記試験を実施するほか、研究報告 (レポート)、随時行う試験、実技試験、出席や学修状況等により判定するものとする。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では成績評価において、平成15年度入学生からGPA (Grade Point Average) 制度を導入し、学生の学修成果について、GPA による客観的指標に基づいて、学生の学修状況や成績の分布状況を把握するとともに適切に実施している。

GPA の算定方法及び GPA 制度については、入学時に各学部の履修案内に記載するとともに本学ウェブサイトにて公表している。

また、GPA の分布については、大学において適宜状況を把握するとともに、学生に対しては本学の学務情報システム「学生ポートフォリオ」により、所属学部の状況を公表している。

『GPA の算定方法』

GPA はそれぞれの評価にGP (Grade Point) を与え、学生個々の履修科目のGP にその科目の単位数を乗じ、その総和を履修登録科目の総単位数で除することによって算出する。

$$GPA = \frac{\sum (GP \times \text{単位数})}{\text{履修登録単位数}}$$

評価	Grade point	評価点
秀	4.5	100-90 点
優	4	89-80 点
良	3	79-70 点
可	2	69-60 点
不可	0	59 点以下

『GPA の算定対象科目』

GPA の算定対象科目は、履修登録した卒業に必要な科目を原則とするが、成績評価を合否で判定する科目、認定科目、再履修により失効した科目及び卒業要件外科目等学部で指定した科目（履修案内に記載）については、GPA の算定対象から除外する。

また、履修キャンセル期間に学生がキャンセルを申し出た科目の単位数は、履修登録科目の総単位数から差し引くものとする。

『学生への通知・公表』

学修成果としての GPA の学生への通知は、毎学期の初めに前学期の学期 GPA 及び通算 GPA を授業科目の成績と併せて通知をしている。その際、再履修により GPA 算定から除外した科目や GPA に算入しない科目を明示している。

また、学部・学年ごとに所属学生の GPA 分布を学務情報システム「学生ポートフォリオ」においてグラフ形式で公表しており、学生は自分が学部・学年の中でどこに位置しているか視覚的に確認することができる。さらに一部の学部では、所属学部・学年の平均 GPA も確認することができる。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

「GPA 制度」(本学ウェブサイト)にて公表している
<https://www.ynu.ac.jp/education/plan/gpa.html>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学の卒業認定・学位授与の方針については、「YNU イニシアティブ」として策定しており、本学ウェブサイト等においてその内容を公表するとともに、適切に実施している。</p> <p>『横浜国立大学（YNU）の卒業認定・学位授与方針』</p> <p>YNU が卒業を認定し、学位を授与するために修得しておくべき学修成果（身に付けるべき資質・能力）として4つの実践的「知」を定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学芸・諸科学に関する豊かな知的資産を学び、グローバル新時代に求められる幅広い専門性と多様な応用力を修得し、世界を舞台に挑戦できる知識・教養 ・グローバルとローカルの視座から文理融合と分野横断を追求し、新たな「知」を創造して諸課題の解決に導く思考力 ・外国の社会制度、文化、宗教、習慣などの多様性に対応できる国際的視点から共生社会の実現に貢献できる高いコミュニケーション力 ・社会が直面する諸課題を解決する強い意志と責任感、普遍的な倫理観に基づく予測困難で変化の激しい時代を主体的に生き抜く人間力 <p>『卒業認定基準』</p> <p>YNU は、修業年限4年以上在学し、学生が所属する学部（学士の学位を授与する教育課程プログラム）が定める授業科目および単位数を修得し、かつ卒業に関わる授業科目が GPA（Grade Point Average）2.0 以上を満たした上、学部が定める卒業の審査に合格した者に卒業を認定する。</p> <p>また、学部が定める授業科目および単位数を優秀な成績で修得し、かつ学部が定める卒業の審査に合格した3年以上在学した者（文部科学大臣の定める者を含む）に対し、卒業を認定することができる。</p> <p>『学位授与基準』</p> <p>YNU を卒業した者に対し、学士の学位を授与する。</p> <p>『学修成果の目標』</p> <p>YNU が卒業を認定し、学士の学位を授与するために修得しておくべき4つの実践的「知」の学習成果の目標を定め、その実現を目指すものとする。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」（本学ウェブサイト）にて公表している https://www.ynu.ac.jp/education/plan/initiative/diploma/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	横浜国立大学
設置者名	国立大学法人横浜国立大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	・ 本学ウェブサイトにより公表する https://www.ynu.ac.jp/about/information/financial/pdf/zaimu.pdf
収支計算書又は損益計算書	・ 本学ウェブサイトにより公表する https://www.ynu.ac.jp/about/information/financial/pdf/zaimu.pdf
財産目録	－
事業報告書	・ 本学ウェブサイトにより公表する https://www.ynu.ac.jp/about/information/financial/pdf/jigyou.pdf
監事による監査報告(書)	・ 本学ウェブサイトにより公表する https://www.ynu.ac.jp/about/information/law/independence/pdf/4_kansa.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 国立大学法人横浜国立大学 年度計画 対象年度: 平成31年度)
公表方法: 本学ウェブサイトにより公表する https://www.ynu.ac.jp/about/project/current_year/pdf/nendokeih31.pdf
中長期計画(名称: 第3期中期目標・中期計画 対象年度: 平成28年度～33年度)
公表方法: 本学ウェブサイトにより公表する https://www.ynu.ac.jp/about/project/several_years/index.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ウェブサイトにより公表する https://www.ynu.ac.jp/about/project/report/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学ウェブサイトにより公表する https://www.ynu.ac.jp/about/project/report/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 教育学部、経済学部、経営学部、理工学部、都市科学部
教育研究上の目的 (公表方法：本学ウェブサイトにおいて各学部の教育研究上の目的を公表している。 http://www.ynu.ac.jp/about/information/law/instructional/pdf/mokuteki-gakubu.pdf)
(概要) 本学各学部・学科・課程の教育研究上の目的は、本学学則において規定するとともに、本学ウェブサイトにて公表している。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：本学ウェブサイトにて『YNU initiative』として掲載。 https://www.ynu.ac.jp/education/plan/initiative/diploma/)
(概要) 本学では士課程における教育目標の達成のための「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の3つの方針を、『YNU initiative』として、学部・学科・課程(学士の学位を授与する教育課程プログラム)ごとに策定し、本学ウェブサイトにおいて公表している。 なお、「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」としては、「学部・学科等が養成する人材」、「学部・学科等の卒業認定・学位授与方針」、「学部・学科等の卒業認定・学位授与基準」を定め、本学ウェブサイトに掲載している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：本学ウェブサイトにて『YNU initiative』として掲載。 https://www.ynu.ac.jp/education/plan/initiative/curriculum/)
(概要) 本学では士課程における教育目標の達成のための「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の3つの方針を、『YNU initiative』として、学部・学科・課程(学士の学位を授与する教育課程プログラム)ごとに策定し、本学ウェブサイトにおいて公表している。 なお、「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」としては、「学部・学科等の教育システムとカリキュラム基本構造」、「学部・学科等の教育課程プログラム運営と成績評価基準」、「学部・学科等における入学から卒業までの学修指導の方針」を定め、本学ウェブサイトに掲載している。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：公表方法：本学ウェブサイトにて『YNU initiative』として掲載。 https://www.ynu.ac.jp/education/plan/initiative/admission/)

(概要)

本学では学士課程における教育目標の達成のための「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の3つの方針を、『YNU initiative』として、学部・学科・課程(学士の学位を授与する教育課程プログラム)ごとに策定し、本学ウェブサイトにおいて公表している。

なお、「入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)」としては、「学部・学科等が求める学生像」、「学部・学科等が入学者に求める知識や能力・水準」、「学部・学科等の入学者選抜の実施方法」を定め、本学ウェブサイトに掲載している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ウェブサイト「教育活動の諸情報の公表」教育研究上の基本組織

<https://www.ynu.ac.jp/about/information/law/instructional/index.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数(本務者)

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	6人	—					6人
教育学部	—	56人	28人	3人	0人	0人	87人
大学院	—	207人	161人	10人	32人	14人	424人
(内訳)							
大学院教育学研究科	—	10人	1人	0人	0人	0人	11人
大学院国際社会科学研究院	—	70人	36人	1人	0人	11人	118人
大学院工学研究院	—	58人	67人	5人	24人	3人	157人
大学院環境情報研究院	—	41人	29人	3人	2人	0人	75人
大学院都市イノベーション研究院	—	28人	28人	1人	6人	0人	63人

b. 教員数(兼務者)

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	505人	505人

各教員の有する学位及び業績(教員データベース等) 公表方法：<https://er-web.ynu.ac.jp/search?m=home&l=ja>
横浜国立大学研究者総覧

c. FD(ファカルティ・ディベロップメント)の状況(任意記載事項)

本学では全学的な取組として、学部教育に係る授業科目について学生による授業アンケートを毎学期実施し、授業担当教員がアンケート結果を踏まえて授業内容の自己点検を行い、授業改善に取り組んでいる。また、各学部の教授会の前に「FDセミナー」を開催し、高大接続・全学教育推進センターの教員がFD等の全学的な取組について、各学部の教員に説明を定期的に行っている。さらに本学は神奈川大学、関東学院大学及び横浜国立大学と「FD活動の連携に関する包括協定」を締結しており、同協定に基づく「ヨコハマFDフォーラム」を4大学合同で毎年開催している。これらの取組はFD推進に係る全学会議(高大接続・全学教育推進センター教育開発・学修支援部会)において企画・調整を行っている。

学部等においても様々な取組を行っている。例えば経営学部においては、年間8回程度「授業見学会」を開催して授業方法について教員間で意見交換を行い、この活動から生まれた改善策は「授業改善のポイント」という文書にまとめ、各教員に配布して授業改善に役立てている。また、毎学期末、経営学部の

授業アンケートの結果を集計・分析し、教授会で報告している。これらの活動によって、授業改善の状況について学部内で情報共有をはかり、授業改善への意識を高めている。
これら本学における各種の取組は、高大接続・全学教育推進センターが発行するAP/FDニュースレター（年2回発行）によって教職員向けに情報発信されている。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
教育学部	230人	242人	105.2%	690人	712人	103.2%	0人	0人
教育人間科学部	0人	0人	0%	380人	477人	125.5%	0人	0人
経済学部	238人	256人	107.6%	974人	1112人	114.2%	15人	14人
経営学部	287人	299人	104.2%	1168人	1311人	112.2%	0人	0人
理工学部	659人	677人	102.7%	2722人	2969人	109.1%	0人	11人
都市科学部	248人	240人	96.8%	753人	750人	99.6%	7人	7人
合計	1662人	1714人	103.1%	6687人	7331人	109.6%	22人	32人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
教育学部	382人 (100%)	28人 (7.3%)	300人 (78.5%)	54人 (14.1%)
経済学部	253人 (100%)	3人 (1.2%)	230人 (90.9%)	20人 (7.9%)
経営学部	317人 (100%)	2人 (0.6%)	289人 (91.2%)	26人 (8.2%)
理工学部	761人 (100%)	569人 (74.8%)	162人 (21.3%)	30人 (3.9%)
都市科学部	1人 (1%)	1人 (1%)	1人 (1%)	0人 (0%)
合計	1,713人 (100%)	602人 (35.1%)	981人 (57.3%)	130人 (7.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
アクセンチュア、大和証券、野村総合研究所、日立製作所、富士通、三菱電機、ソフトバンク、NTTドコモ、スズキ、日本航空、トヨタ自動車、東日本旅客鉄道、日本放送協会、清水建設、野村證券、三井住友銀行、東京都庁、東京国税局、横浜市役所				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
教育学部	394人 (100%)	336人 (85.3%)	48人 (12.2%)	10人 (2.5%)	0人 (0%)
経済学部	241人 (100%)	187人 (77.6%)	46人 (19.1%)	8人 (3.3%)	0人 (0%)
経営学部	337人 (100%)	262人 (77.7%)	58人 (17.2%)	17人 (5.0%)	0人 (0%)
理工学部	788人 (100%)	647人 (82.1%)	113人 (14.3%)	28人 (3.6%)	0人 (0%)
都市科学部	0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
合計	1760人 (100%)	1432人 (81.4%)	265人 (15.1%)	63人 (3.6%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学では、すべての授業科目において、授業の方法及び内容、履修目標及び到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、本学のWEBシラバスを通じてその内容を学内外に公表している</p> <p>本学の授業計画(シラバス)は、授業科目名、単位数、授業の目的、授業計画、授業時間外の学修内容、履修目標、到達目標、成績評価の方法、成績評価の基準、授業の方法、教科書・参考書、履修条件・関連科目等を日本語又は英語で記述し、学生に対しあらかじめ明示するものとする。</p> <p>また、「授業設計と成績評価ガイドライン」に基づき、履修目標と到達目標の明確化、全学的な成績評価の基準表の導入、授業別ルーブリックの作成と学生への明示を行うとともに、授業改善のPDCAサイクル確立を図るものとする。</p> <p>履修目標は、授業で扱う内容(授業のねらい)を示す目標とし、より高度な内容は主体的な学修で身に付けることが必要であり、履修目標を超えると成績評価「秀」となる目標を示すものとする。到達目標は、授業を履修する学生が最低限身に付ける内容を示す目標とし、到達目標を達成すると成績評価「可」となる目標であり、さらなる学修を必要とするレベルを示すものとする。また、到達目標には、本学が卒業を認定し、学位を授与するために修得しておくべき学修成果(身に付けるべき資質・能力)として本学が定める4つの実践的「知」(知識・教養、思考力、コミュニケーション力、倫理観・責任感)との関連を記載することとしている。</p> <p>本学の授業期間は、2学期6ターム併用制を採用し、春学期と秋学期の2学期に分け、各学期16週(セメスター科目)又は8週(ターム科目)にわたる授業期間を併用して授業を実施するものとする。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

成績評価及び単位の授与並びに履修認定にあたっては、授業科目毎にあらかじめ設定した履修目標及び到達目標並びに成績評価の方法及び基準に基づき、履修学生の学修成果について、厳格かつ適正に評価して単位の授与を行い、卒業認定は、学生が所属する学部が定める要件を満たし、かつ、卒業の審査に合格した者に卒業を認定している。

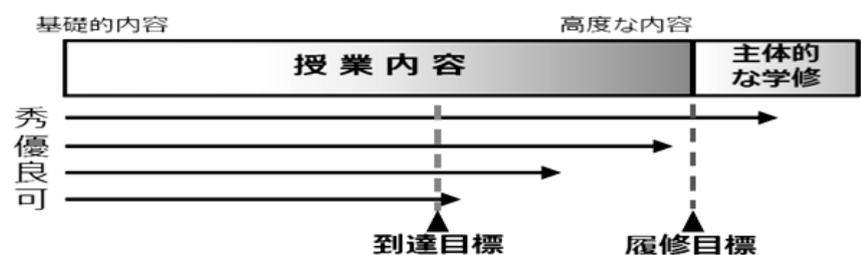
『成績評価基準』

YNU 授業の成績評価は、「授業設計と成績評価ガイドライン」による全学統一の成績評価基準に基づき、WEB シラバス (Syllabus) に記載した成績評価の方法により総合判定し、成績グレード (評語) を「秀・優・良・可・不可」の5段階で表し、それぞれの授業科目の成績評価に対して GP (Grade Point) を与えるものとする。ただし、5段階の成績グレード (評語) で表し難い授業科目は「合格・不合格」で表し、GP (Grade Point) を与えないものとする。

WEB シラバス (Syllabus) には、授業科目ごとの授業の目的、授業計画、授業時間外の学修内容、履修目標、到達目標、成績評価の方法、成績評価の基準、授業の方法、教科書・参考書等を学生に対しあらかじめ明示するものとする。

成績評価の基準には、学修成果に係る評価指標として「授業別ルーブリック」を作成し、学生が学修する内容と学生が到達するレベルをマトリックス形式で明示するものとする。

1. 履修目標は、授業で扱う内容 (授業のねらい) を示す目標とし、より高度な内容は主体的な学修で身に付けることが必要であり、履修目標を超えると成績評価「秀」となる目標
2. 到達目標は、授業を履修する学生が最低限身に付ける内容を示す目標とし、到達目標を達成すると成績評価「可」となる目標であり、さらなる学修を必要とするレベルを示す



『単位の授与』

YNU の授業科目の単位授与は、授業科目を履修し、その成績を判定の上、「秀、優、良、可、合格」を取得した学生に所定の単位を与えるものとする。ただし、卒業論文、卒業研究、卒業製作等の授業科目は、学部の定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えるものとする。授業科目の成績は、履修した学生に対して、原則として学期末又はターム期間末に筆記試験を実施するほか、研究報告 (レポート)、随時行う試験、実技試験、出席や学修状況等により判定するものとする。

『卒業認定基準』

YNU は、修業年限 4 年以上在学し、学生が所属する学部 (学士の学位を授与する教育課程プログラム) が定める授業科目および単位数を修得し、かつ卒業に関わる授業科目が GPA (Grade Point Average) 2.0 以上を満たした上、学部が定める卒業の審査に合格した者に卒業を認定する。

また、学部が定める授業科目および単位数を優秀な成績で修得し、かつ学部が定める卒業の審査に合格した 3 年以上在学した者 (文部科学大臣の定める者を含む) に対し、卒業を認

定することができる。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
教育人間科学部	人間文化課程	124 単位	有	半期 24 単位まで
教育学部	人間形成コース	130 単位	有	半期 24 単位まで
	教科教育コース	130 単位	有	半期 24 単位まで
	特別支援教育コース	132 単位	有	半期 24 単位まで
経済学部	経済学科	124 単位	有	48 単位(各学期 24 単位)
	Global Business and Economics 教育プログラム	132 単位	有	48 単位(各学期 24 単位)
経営学部	経営学科	124 単位	有	半期 22 単位(1 年次) 半期 24 単位(2 年次以上) 半期 28 単位(成績優良者)
	経営学科 夜間主コース	124 単位	有	半期 24 単位 半期 28 単位(成績優良者)
	Global Business and Economics 教育プログラム	132 単位	有	半期 22 単位(1 年次) 半期 24 単位(2 年次以上) 半期 28 単位(成績優良者)
理工学部	機械・材料・海洋系学科	124 単位	有	半期 24 単位(1 年次) 半期 22 単位(2 年次) 半期 20 単位(3 年次) 半期 14 単位(4 年次) 26 単位(成績優秀者)
	化学・生命系学科	124 単位	有	26 単位(1 年次春学期) 22 単位(1 年次秋学期) 半期 22 単位(2 年次以上) 半期 26 単位(成績優良者)
	数物・電子情報系学科	124 単位	有	24 単位(1 年次春学期) 半期 20 単位(1 年次秋学期以降) 半期 26 単位(成績優秀者)
都市科学部	都市社会共生学科	124 単位	有	半期 24 単位
	建築学科	124 単位	有	半期 24 単位(1 年次) 半期 20 単位(2 年次以上) 半期 26 単位(成績優良者)
	都市基盤学科	124 単位	有	半期 24 単位(1 年次) 半期 20 単位(2 年次以上) 半期 26 単位(成績優良者)
	環境リスク生命学科	124 単位	有	半期 24 単位(1 年次) 半期 20 単位(2 年次以上) 半期 26 単位(成績優良者)
G P A の活用状況 (任意記載事項)	公表方法：GPA の分布状況については、学内での把握に用いているほか、学生に対して、学務情報システム「学生ポートフォリオ」において、所属学部内の GPA 分布をグラフで公開するとともに、そのグラフにおける自分の位置を表示している。			
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：以下の情報を本学ウェブサイトに掲載している。 ○教員免許状取得状況 https://www.ynu.ac.jp/about/information/law/license/acquisition.html ○学生の受賞について https://www.ynu.ac.jp/education/ynu_research/result/award.php			

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ウェブサイトにて公表
 ・キャンパス案内・お問い合わせ
<https://www.ynu.ac.jp/about/campus/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
学部	昼間主 コース・第 一部	535,800 円	282,000 円	円	・入学料・授業料 本学ウェブサイト「入学料・授業料」 https://www.ynu.ac.jp/exam/procedure/payments.html
経営学 部	*夜間主 コースの み	267,900 円	141,000 円	円	*学生募集停止

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

本学では、学生の修学に係る支援に関する全学組織として、附属図書館、保健管理センター、情報基盤センター、国際教育センター、学生会館等があり、1キャンパスに統合された常盤台地区で、計画的な緑化による、都市空間に在りながら緑豊かな修学環境を形成している。

入学当初のオリエンテーションでは、大学での勉学・生活等の説明を実施し、その後「YNU リテラシー (アカデミック、情報、シビック)」教育により、大学入学直後の全般的サポート体制を構築している。

また、学修支援やキャリア教育として、YNU ポートフォリオによる自律的な学修促進支援、コンタクト教員制度、オフィスアワー、成績不良者との面談、入学料・授業料免除、徴収猶予、各種奨学金など、入学から卒業まで一貫した修学支援体制を構築している。

代表的な取組について、以下のものを本学ウェブサイトにて公表している。

・コンタクト教員制度

学生一人一人に対して、早期に必要な支援・指導を行うなど学生に対するサポートを充実するため、コンタクト教員制度を導入します。

<https://www.ynu.ac.jp/education/plan/contact.html>

・学費免除・奨学金

入学料および授業料の免除・徴収猶予制度は、経済的理由等によって、

入学料または授業料の納付が困難な者に対し、申請に基づき選考のうえ、入学料または授業料の減免もしくは入学料または授業料の徴収を一定期間猶予する制度として実施しています。

<https://www.ynu.ac.jp/campus/expense/exempt.html>

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

横浜国立大学では、全学的な就職支援をキャリア・サポートルームで行いながら、専攻や所属に特化した就職支援を各学部・大学院ごとに決められた就職担当教員が行っています。

また、校友会や同窓会組織と連携を図り、企業で活躍している卒業生による支援や、企業等から内定を得た在学生による後輩への支援、自治体・他大学との連携により推進する外国人留学生就職促進プログラムでの支援など、内外での連携を図りながら、就職支援イベントの実施や就職相談、就職関連情報の提供など、多様な就職支援を行っています。

・就職支援

本学ウェブサイト「就職支援」

<https://www.ynu.ac.jp/career/support/>

学務部学生支援課 HP「就職支援 キャリア・サポートルーム」

<http://www.gakuseisupport.ynu.ac.jp/career/>

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の健康相談、生活相談、各種ハラスメントの相談等のために、相談内容に応じて、学生センター、なんでも相談室、コンタクト教員、ハラスメント相談窓口など学生の意見・要望を直接的に把握し、学習面に加えて学生の生活・健康面についての情報をすばやく把握し、必要な支援をする体制を構築している。

代表的な取組として以下のものがあり、本学ウェブサイト上でも公表しています。

・なんでも相談室

学生生活を送るうえで、困ったことやわからないことを気軽に相談できるところとして、「なんでも相談室」を設置しています。

本学ウェブサイト「なんでも相談室」

<https://www.ynu.ac.jp/campus/navi/index.html>

・ハラスメント相談

本学ウェブサイト「ハラスメント相談」

<https://www.ynu.ac.jp/campus/harassment/index.html>

・障がいのある学生への支援

障がいのある学生が、障がいのない学生と同じように教育や研究に参加できるように、学内の関係部署等と連携し、修学に際してどのような困難があるかを伺い、どのような支援が最適か、一緒に相談しながら支援を行っています。

本学ウェブサイト「障がいのある学生への支援体制について」

https://www.ynu.ac.jp/campus/support_2/support.html

・保健管理センター

保健管理センターでは、主に4つの業務を行っています。

①定期健康診断の実施

②就職、進学、教育実習等に必要な健康診断証明書の発行

③精神科医、カウンセラーによる心の健康相談

④ケガや急病が発生した場合に、応急処置の実施、必要に応じた医療機関への紹介

本学ウェブサイト「保健管理センターのご案内」

<https://www.ynu.ac.jp/campus/support/health.html>

本学保健管理センターウェブサイト <http://www.hoken.ynu.ac.jp/>

・学生生活サポート

本学ウェブサイト「学生生活サポート」

<https://www.ynu.ac.jp/campus/support/index.html>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

本学ウェブサイト「教育活動の諸情報の公表」

<https://www.ynu.ac.jp/about/information/law/instructional/index.html>